



ル呂4
2320
2

美豆

淀の天橋の南尻の里より則京街道の順路ありて... 美豆の所故とて...
五月ぬららの五枚の満も... 順徳院

朝みくづの上野より... 順徳院

木津川

水源の伊賀より出... 山城和東より出... 水と合流... 末の淀川より一名

淀大橋

右木津川より... 間小橋... 大橋の北より大橋と小橋の間有

淀大渡

南へ通じ大橋間小橋小橋おと... 豊太閤の御時木津川と

淀

大坂より... 蹴上... 淀の... 水のみぐれ



定大橋

五月雨

河くまよ

くむ

渡の人

鞭石

船よる

声のゆきぬ

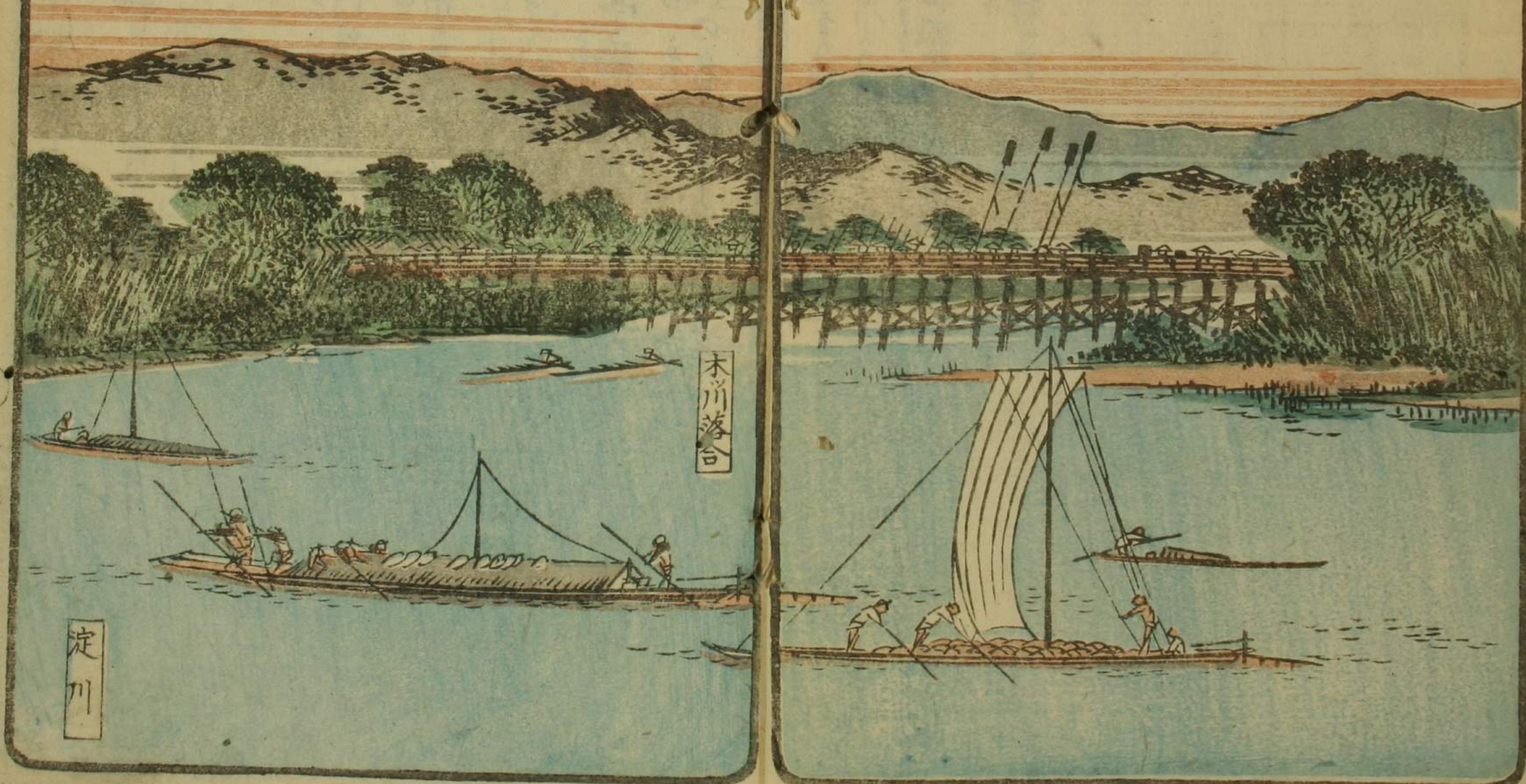
稀くよ

ゆきぬ

ゆきぬ

川くま

野城



木川落台

定川

つるも掛川鴨川宇治川木津川木のち合くつるれがよきとわくつるる

淀城 其初に岩成主税助がきづく前より其後豊公の清藤中成等住す入と

より小橋より工家商家等とつるの茶屋もあつたりと云はれは後金台

淀河 城廓の五畿内第一の大河として六國の水を以て歸會は山城

丹波 河水の常は溶々と流るる流れ難波津は往く舟の

昼夜とも不間断なく城郭の汀に水車あつて波は随ひ翻々と

めぐる領主の茶亭橋上の往來の美景遠々と足びとつ夏

さう又此所の鯉の名産として殊は美味なり高貴の献上する

城辺の魚と用也 俗にこれと見え 故に常は遊獵と禁は

淀小橋 城廓の上より長七十六間橋下の大間に鐵燈爐と釣終夜灯と燈

伊勢向宮 小橋の東より天照太神とまつ此は浮城なり洪水の時と云ふ

巨椋大池 川との傍より長二十九町幅十五町と云ふ 船中より見ればわづの入口も

伏見 此池より花洛といふ程二里日本紀より俯見とすり和等より是れ

文禄三年秀吉公所在此より町小路建後として西國より東國北國への物も

の塔とあり町敷二百六十余町舎屋六千二百余軒とあり是より京原より

東御門と云ふ西の道と竹田御門と云ふはれ其便宜は任は

淀城
御茶屋

春の万川

鯉のうきさや

あそびきし

梅室

白鳥の

あそびきし

波の水

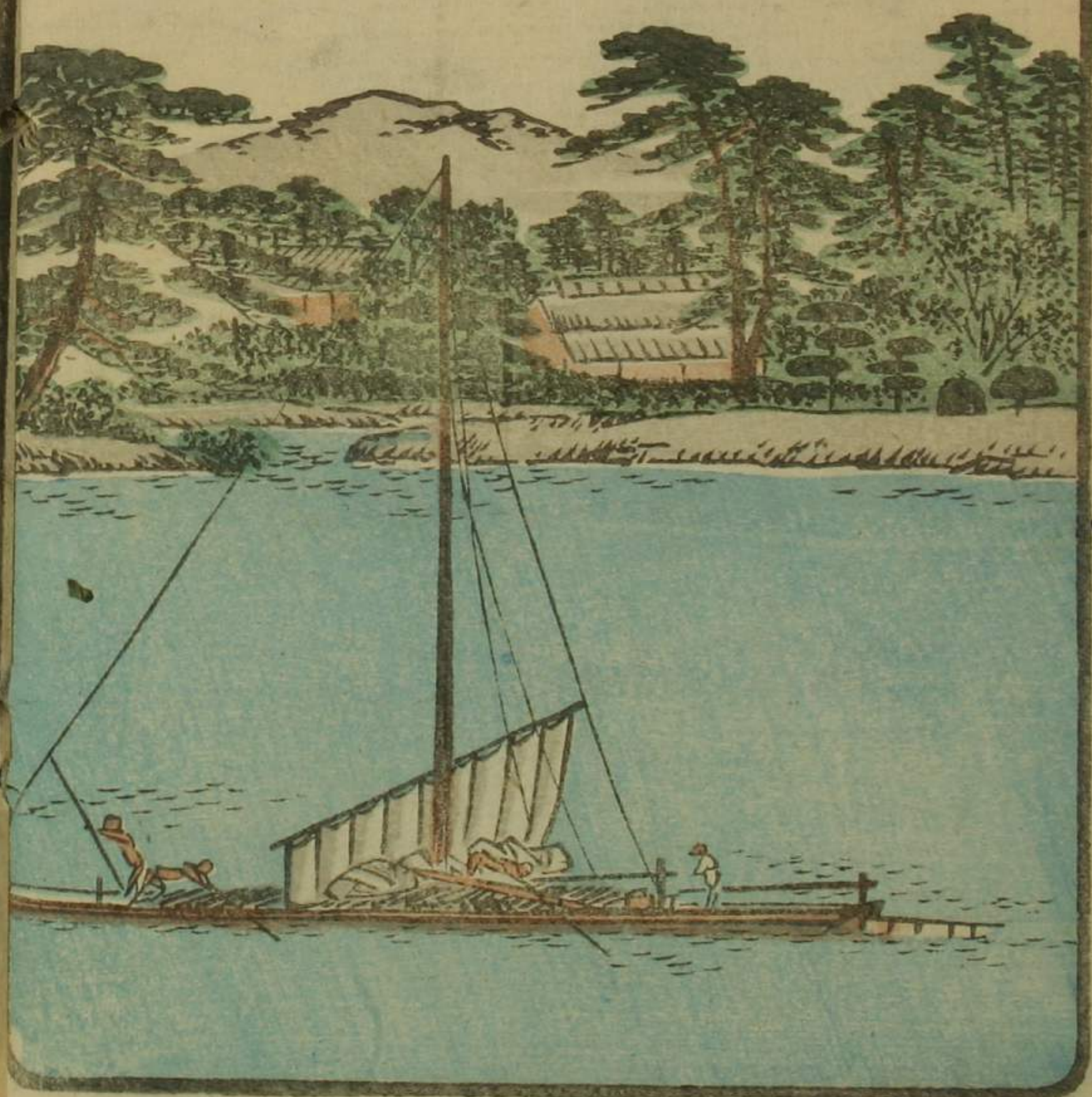
言水



上
二
三

其二

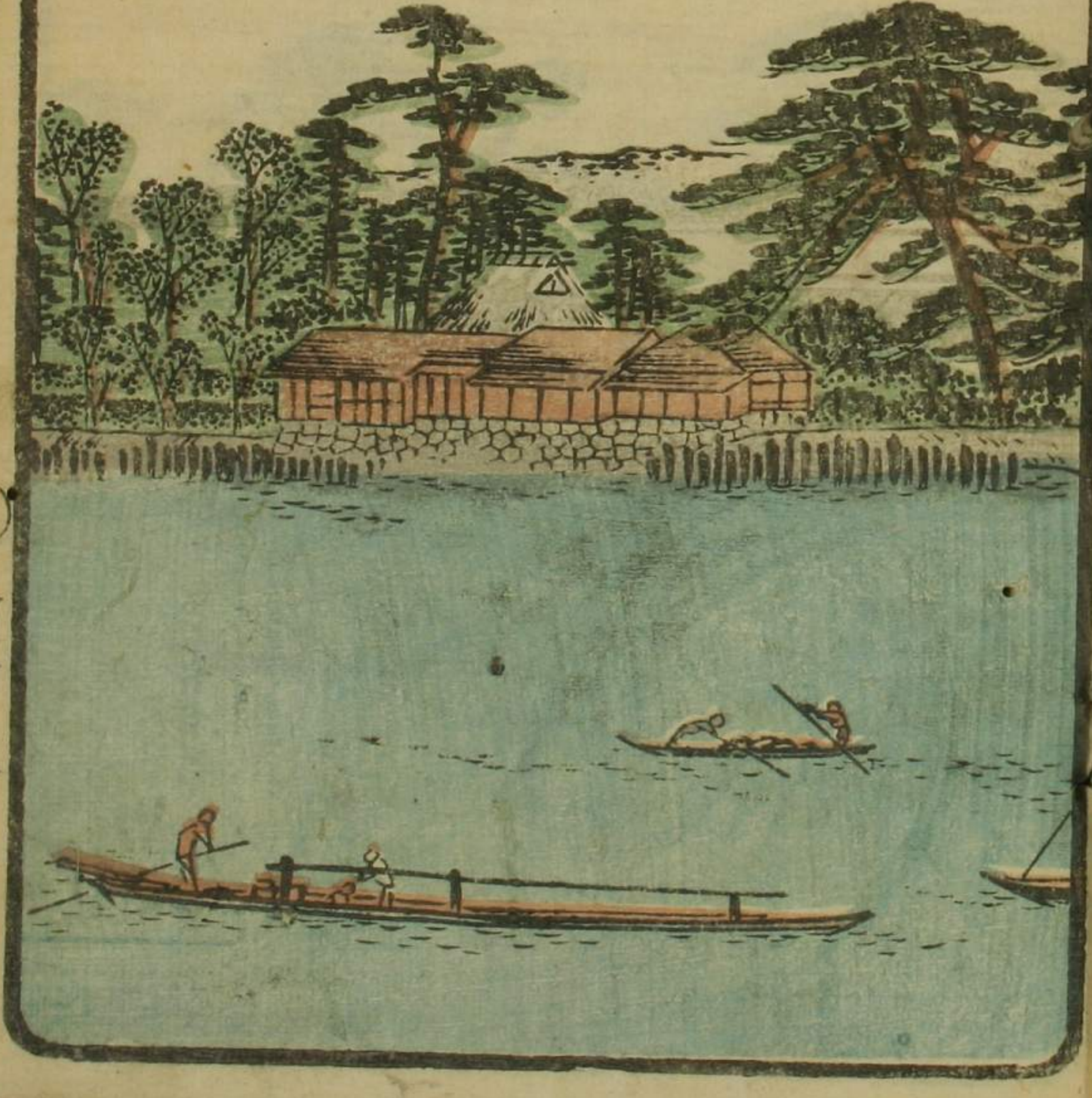
漢河東望
帝王別二
月春風上
瀨舟却訝
蓬窓猶有
月夜來白
雪滿汀洲
釋元皓



川風の葛蒲
ふさふさ

渡の町
曲水

この様ハ
涼かりそ
渡の舟
梅室



其三

三月梅雪

及むれされど

初めよまうそ

万の波の

あつこ

冬降

西山雨晴
曉落花漲
漢津城頭
水車子酌
取萬斛春
巖垣彦明



上
リ
二
六

上
二
五

其四

水車

渡のつらゆの

修程あり

つらゆの

まは

つらゆの

あつねもの

よし車

まこと浮橋

まめ

る



子奴まらや

渡のふ

つら

宗因

名目也

沼あり

つら

水車

言水



上
三
左

其五

わくぎん

ニツの橋と

波の糸

惟然

鏡

灯さるや

波の糸

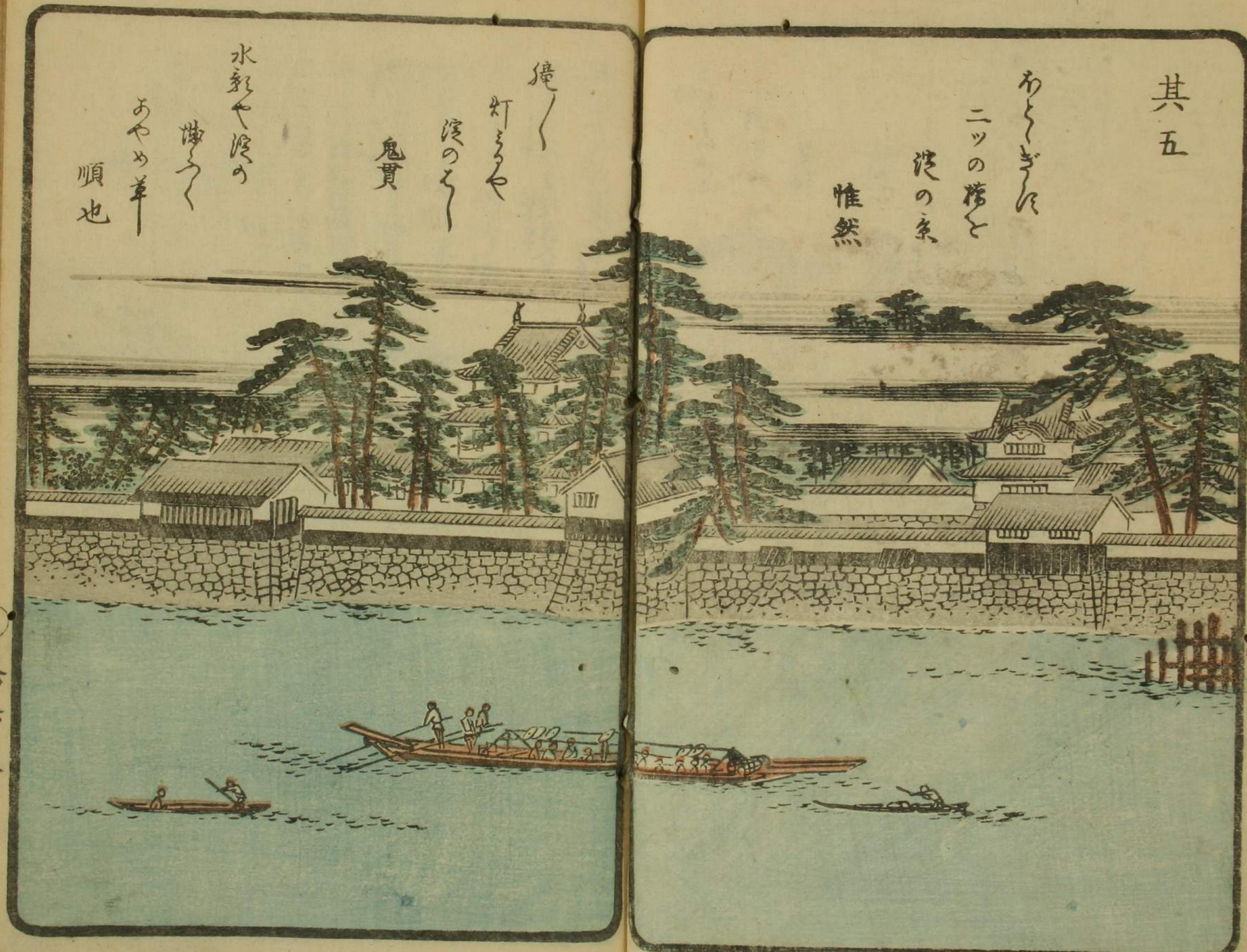
鬼貫

水鏡や波の

波さる

あやめ草

順也



其六

小橋

橋の北端に三つ並に三つ並に
 貨食店あり渡舟の人の
 かして高き一物一物と
 船一船とよせて上流まで
 是より宇治川の清流を
 つるまじき金言
 得るの人まじかると例は
 伏見よりくる客も亦て
 舟のまじかると例は
 柱女の河橋に程遠せり
 頼仁も目とゆゑて頼仁の

別荘とせしむる
 舟のまじかると例は
 舟のまじかると例は
 舟のまじかると例は
 舟のまじかると例は
 舟のまじかると例は
 舟のまじかると例は
 舟のまじかると例は
 舟のまじかると例は
 舟のまじかると例は
 舟のまじかると例は

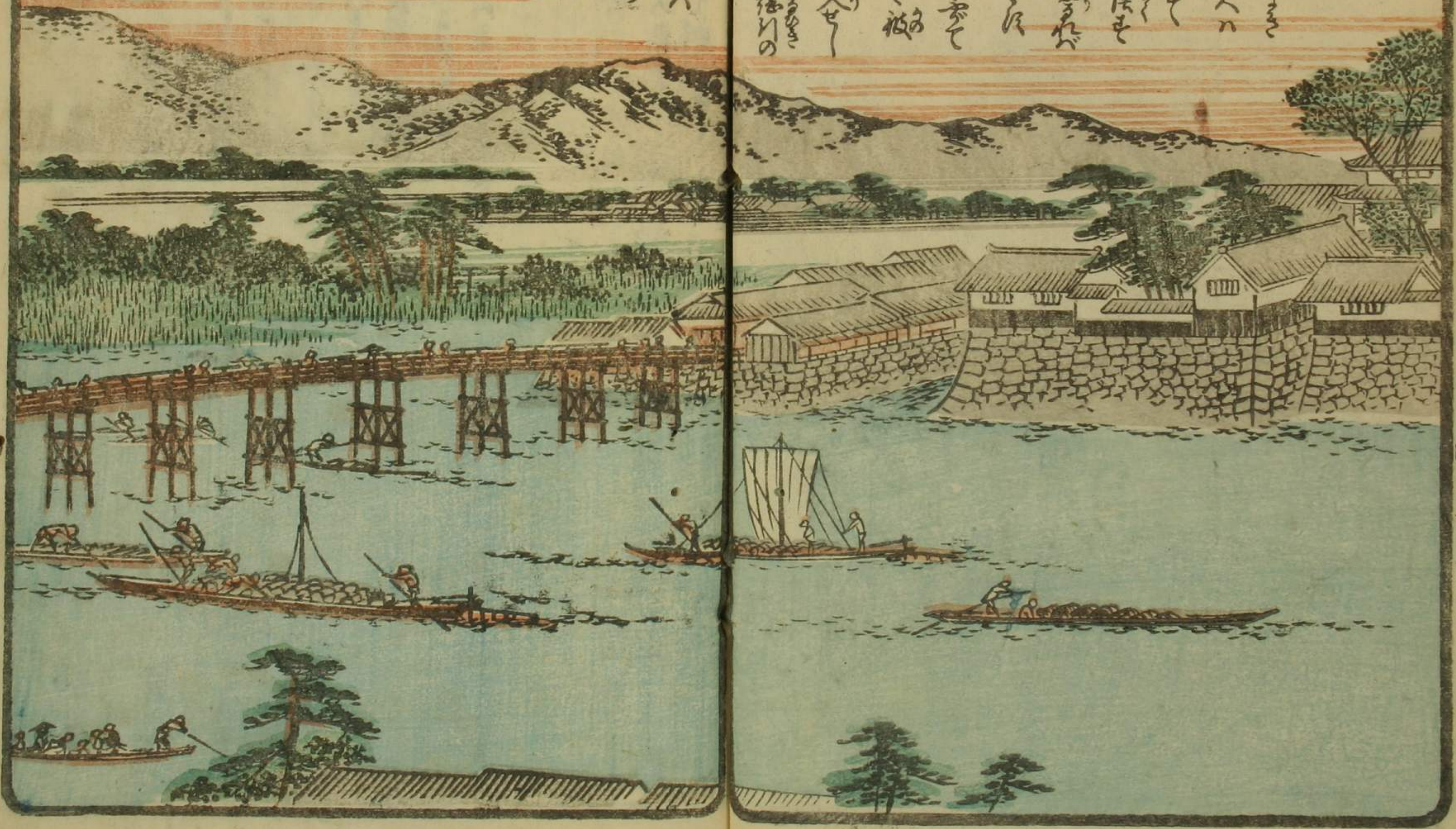
舟の灯も

あぢらう

あぢらう

あぢらう

千山



新吉 夏か入道と云はれぬ号休の如くその里の鳥の下に有家

朝戸明く伏見の里と云はれぬが悉くむせむ空流の河波 俊成

此余野の沢田と云はれぬ人の和秋と云はれぬ高名所旧蹟と云はれぬ有と云はれぬ夏と云はれぬこれと云はれぬ只樹の影と云はれぬ

肥後橋 伏見の入口下三橋より西渡町より長十五間半京橋より着岸の登舟此川より第一番見ゆ

三栖社御旅所 肥後橋の東詰より例祭九月十六日生土の神輿此所は渡御あり

住吉神社 肥後橋の東船大工町より宝藏院と云はれぬ守護に東濱より着岸の登舟此川より入る

今富橋 東濱より中書島より橋の長十八間幅一間六尺一寸此橋は船宿と云はれぬ

中書島 今富橋の東詰より一説は支禄年中向鶴と云はれぬ築くところには中書島の地より慶長の初め伏見の城と共に滅亡せり

荒廢の地と云はれぬ後世は女町と云はれぬ河口神津と云はれぬ旅客の船と云はれぬ

辯財天社 中書島より本寺辯財天女の像に弘法大師の作と云はれぬ例年六月廿五日祭れり

京橋 今富橋西詰の北の方の濱より北へ北詰と云はれぬ京橋町より橋の長二十二間此詰は御高札場より渡小橋より是まで水上九五十町

當橋の辺より浪華より京師より上下の通船舟石今井或は傳道の荷

船木の船岸より夜と云はれぬ昼と云はれぬ出入の船と云はれぬ且都と云はれぬ

高瀬船宇治河下は紫船と云はれぬ拳と云はれぬ喧と云はれぬ京撮の往返関東

上下の旅客群集の地と云はれぬ故旅舎貨食家のまき河と云はれぬ更

より土産物の商家旅行用具の正店脚店軒と云はれぬ

伏見
京橋

當櫓のお落東北の
角は城壁のどろ
埃樓のりりり
伏見の城の遺風
うらべー一奇観
うり



お合の船
うらべー一奇観
うり
お合の船
うらべー一奇観
うり



敗ひきぐされが船ふね上かみでの老らう若じやく下かみでの男おとこ女めづづれも船ふね宿やどよへくく支し度どと
調しらへ故ゆゑは烟えん草そう揚やう枝え紙しるる填てん菓か子し煙えん頭とうとも人ひと童どう子し浅せんの両りやう替か青せい物ぶつ
賣う按あん摩ま按あん腹ぶくの療りやう治ぢ人にん本ほん堂どう修しゆ履りの初はつ進しん信しん立たかり入いかり此こゝは
末すえく數かずさく心こゝろ飲いん食じやくとんぐ賣う里りの上かみ客きやくられ下かみ客きやく迎むかひよ末すえく
船ふね頭とうわりくく暫しばしも静しずからくく皆みな此こゝの縣かみひらり

阿波橋

肥ひ後ご橋はしの川がはより上かみ者もの渡わたりと云いふ也なり船ふね宿やどの所ところにあり最もくく

蓬萊橋

京きやう橋はしの上かみ南なん洋やう町まちより中ちゆう書しよ島しまの架かけ橋はしの長ながササ三さん十じゆう二に間かん幅はく二に間かん此こゝ橋はしをく渡わたりる

船ふね上かみでの縁えん客きやく京きやう師しに到いたり各おのづか其その勝かち手てに任まかせ同どうじくにも凡たゞん

此こゝ橋はし條ぢやうと北きたへ下かみ板いた橋はし通とほり至いたり此こゝ西にしのりりて在あり

深ふか草くさと經へる系けい入いと本ほん街まち道ぢゆうと又またへり下かみ板いた橋はしと渡わたりる

車くるま道ぢゆうと北きたより上かみり是こゝ東とう洞どう院いん通とほり竹たけ田でん村むらより西にし六ろく条ぢゆうと趣そと六ろく筋ぢんの南なんの方かた

御香宮

奉ほう施せ宮みや前まへ町まちの山やま列れつの所ところ所ところ法ほふ蓮れんのあんん本ほん社しゃ祭まつり神かみ神かみ功こう皇かう后こう宿しゆく称せうの女によあり

九所堂

拜らい殿でんの傍はたはり伊い勢せい兩りやう宮みや本ほん社しゃのままや末すえ社しゃ本ほん社しゃののちの右みぎのかみぐん神かみ樂らく殿でん本ほん社しゃののちの傍はたはり

御炊殿繪馬舎本地堂

賽さい石いしの傍はたはり鳥とり居いの内うち表あへるのの間まにありままま人ひと神かみ典でん舎しゃ

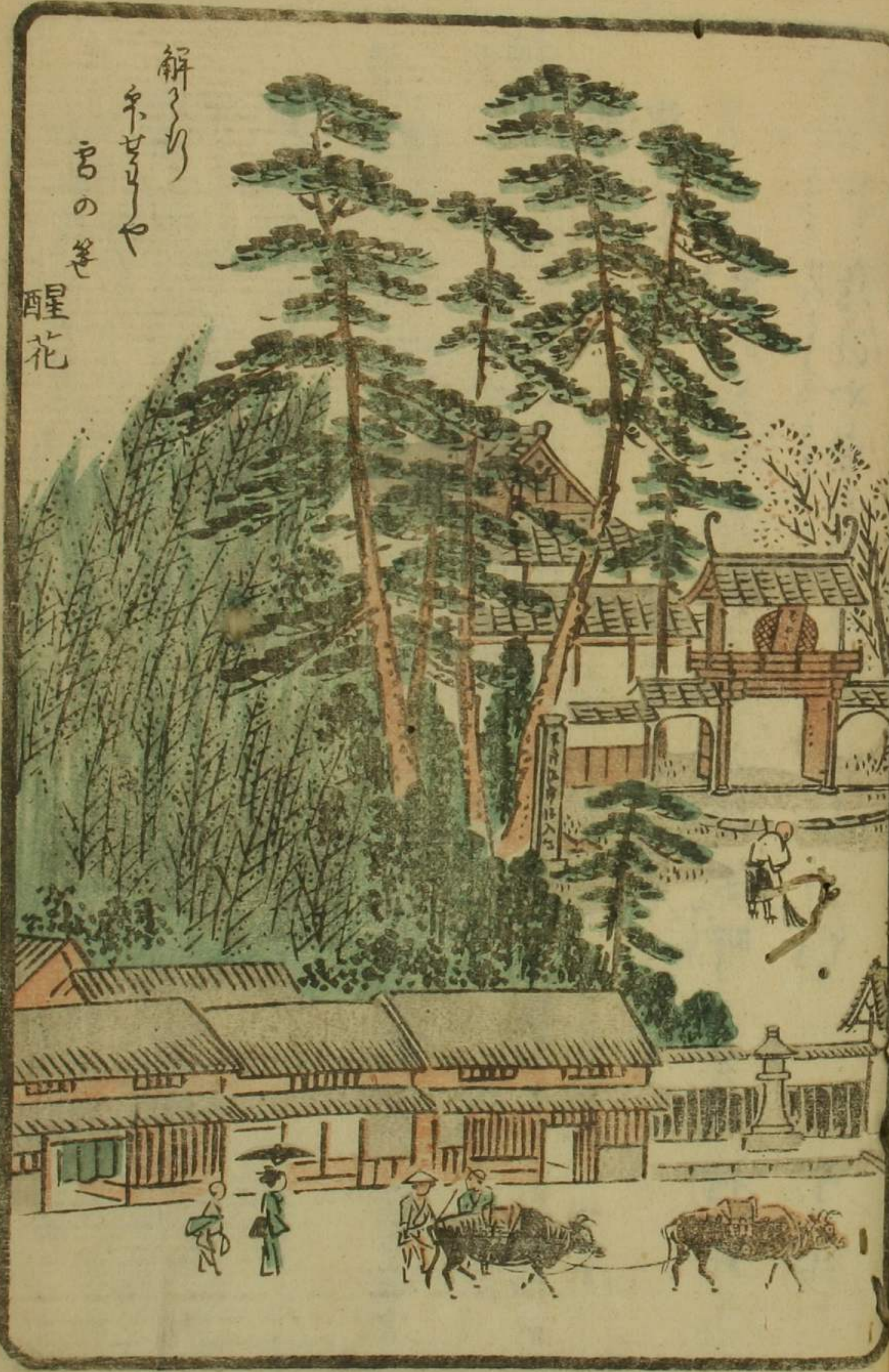
御香水

傍はたはり拜らい殿でん南なん門もん伏ふし見みのの中ちゆうにありままま後のちにあり

飲淨寺

樹じゆ乃のの東とう側がはわり本ほん寺てい阿あ弥い陀だ佛ぶつ立た像ざうをくて聖せい徳とく深ふか草くさ少せう將しやう塚づか小せう野の

浄じやう土ど宗しゆ



解とり
糸いとせりや
言ことの筆
醒さ花



えんいんじょうじょうど
欣きん浄じょう寺じ
侯こうのの草そう寺じ
とと又また

小町塚 この町のつ 少將通道 少將のあひら 道元禪師石像 道元のあひら
 竹の下道 竹のあひら 七瀬川局墳 石像のあひら 墨染井 地のあひら

續千 深草や竹の下乃分らるる... 蘭皇太政大臣

種木町 本名あびと町秀吉公伏見所在城のとき渡辺掃部前百八丈塔つくりしもの
 慶長九年十二月備前城町と免許ありし所なりとて先祿のあら大石内藏助此
 廓に於て一時さやとりつる樂戸の天井板は落書せしとて世の口碑のなり
 物なりとて亦も没落しあはれ天井板は東武の人より賣らるるなり
 葉の花や葉の... 這入種木町 何狂
 新沢や畑のあはれ種木町 可風

墨染 種木町の西之丁よりつりしはあはれなり 寛永三年堀川太政大臣昭宣公

薨じ給ふ時上野岑雄哀傷の和歌と詠せしる此あはれなり
 墨染は嘆き...

今 深草の路の... 今年...

康頼入道の宝物集よ... 墨染の名は此...

世継物語云...

すしごめ
墨 深
あつまつり
有馬稻荷



梅あり
おまぬ
ふりのうわ
咲ゆみぐれの
墨のくま
鶏成



藤杜岐道
ふらのりまねま



梅

うーや

伏ろん

牛の

びろー

ナダ

南谿



伏見
藤森社



産子の膏宮より神前三體とかがり桑日一の格より宿荷藤のまき朝より

深草里

走り馬のつづれも軍陣の行粧とす天下平安の祈りこれ一箇の勝地としていへり又此里の名産は土産風俗その外土知工の人形

又お又蕃椒の粉圍あるとてつる世に名き

人形の西ひつづみ花身んと群つて通るふしと徳乃 天地根

いんざうよあいつそとてつるせつとや依人の里のあひ人形 春女

瑞光寺 瑞光寺の門ちりり大塚として周廻十間余あり

本尊釋迦佛 長二尺胎内五勝六腑は

元政墓 佛殿の西ひり塚の上より竹とやゆりえ政法師堂

わが深草いんざういんざう 秋の糸 灯

鳥の跡いんざういんざう 乙由

昭宣公墳

此の宝塔寺の池より東に深草のあひ

霞谷 南の谷にすくの懸名あり

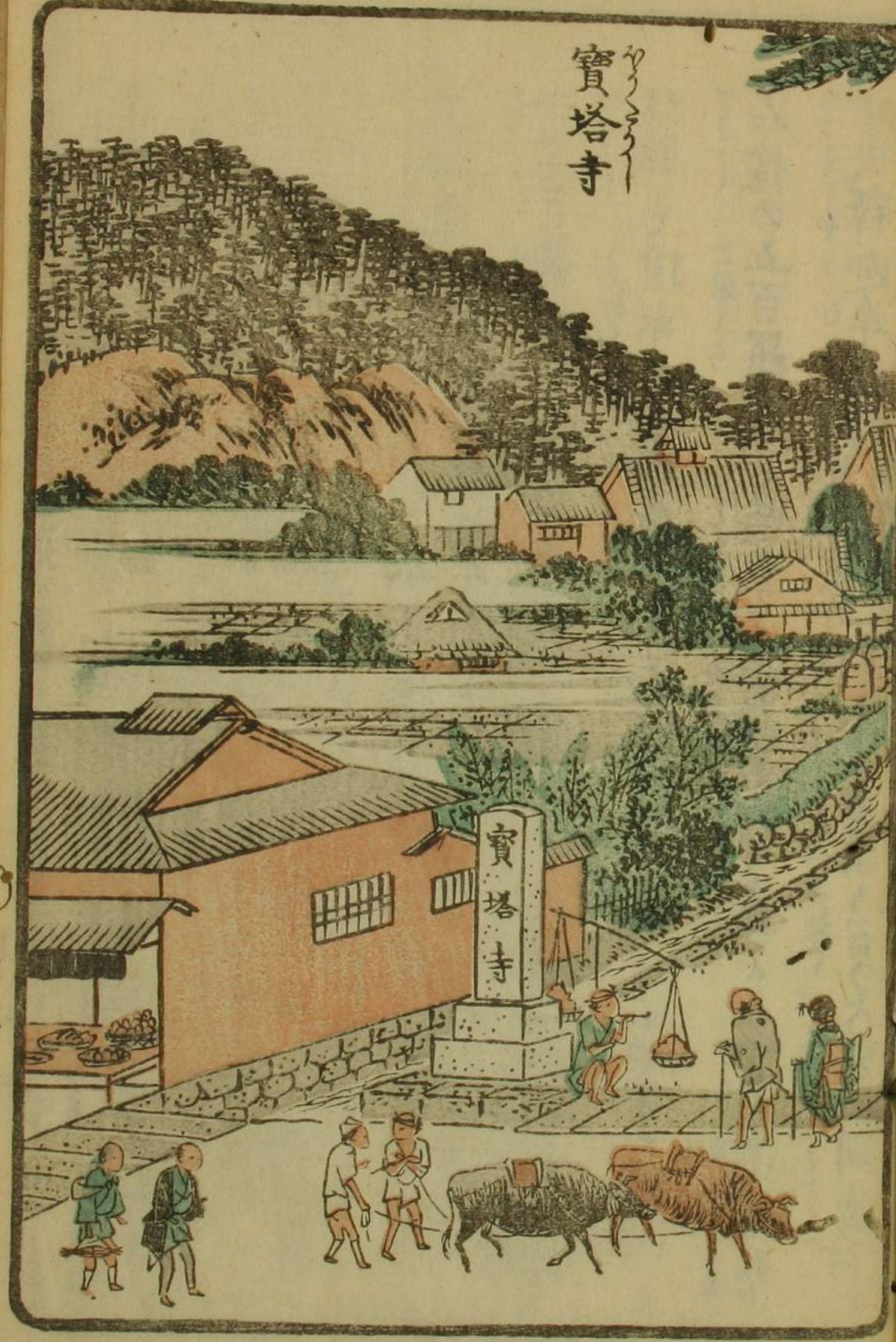
五吟 おのひやは苔の下をゆくこれ霞谷のあひ夕言 家隆

極楽寺旧跡

瑞光寺の北にあり 本尊釋迦佛 多寶佛 高祖日蓮上人の像と安ん

寶塔寺

寶塔寺



廟塔

日像上人書と云の石塔あり

釋迦千射堂

七面明神社

此下日蓮日朗の遺骨と收む

石峰禪寺

七面明神の鳥居の額ハ元政の筆ハ例祭九月十九日

當寺ハ旧極樂寺トシテ真言律ト兼テ延慶年中より法華道場ト改む

本尊釋迦佛

寶塔寺の北ニ隣ル

藥師堂

本堂の傍ニあり本尊藥師佛

長守惠心僧都の作なり

表門

高着眼と書ハ

當寺ハ黃檗の六世千呆和尚の因基トシテ黃檗退院の後此地ニ

住職ト近年安永の半より天明の初ニ至ツク當寺の後山ニ

石像の五百羅漢と造立シ靈鷲山と爰より其形勢

中央釋迦牟尼佛

長凡六尺許

周ニ十六羅漢五百の大弟子圍繞

釋尊說法の体相と作る

羅漢の像あり三尺許のれも自然石と耶

尤雨露の覆るト山中ニ充満シ自ら苔ひク其雅なるト

言語ニ絶ヤリ突ニ無双の美観トシテ

稻荷神社

伏見街乃リ此街及櫻橋ト南ハ

本社第一宇迦御魂神第二

素盞鳥尊

宇迦御魂神の

第三大市姫神

已上ニ座往古三峰

田中社

大己貴

四大神

五十猛命大屋姫

此ニ神と加ヘ併テ五座

と稱シ

弘長三年ニ告ラシ

樓門朱の玉垣キ

びヤリ小権殿禮殿

舞殿末社神庫繪馬舎鳥居木藪々トシテ神官館社僧の坊々

文永年中ニ候セヨ

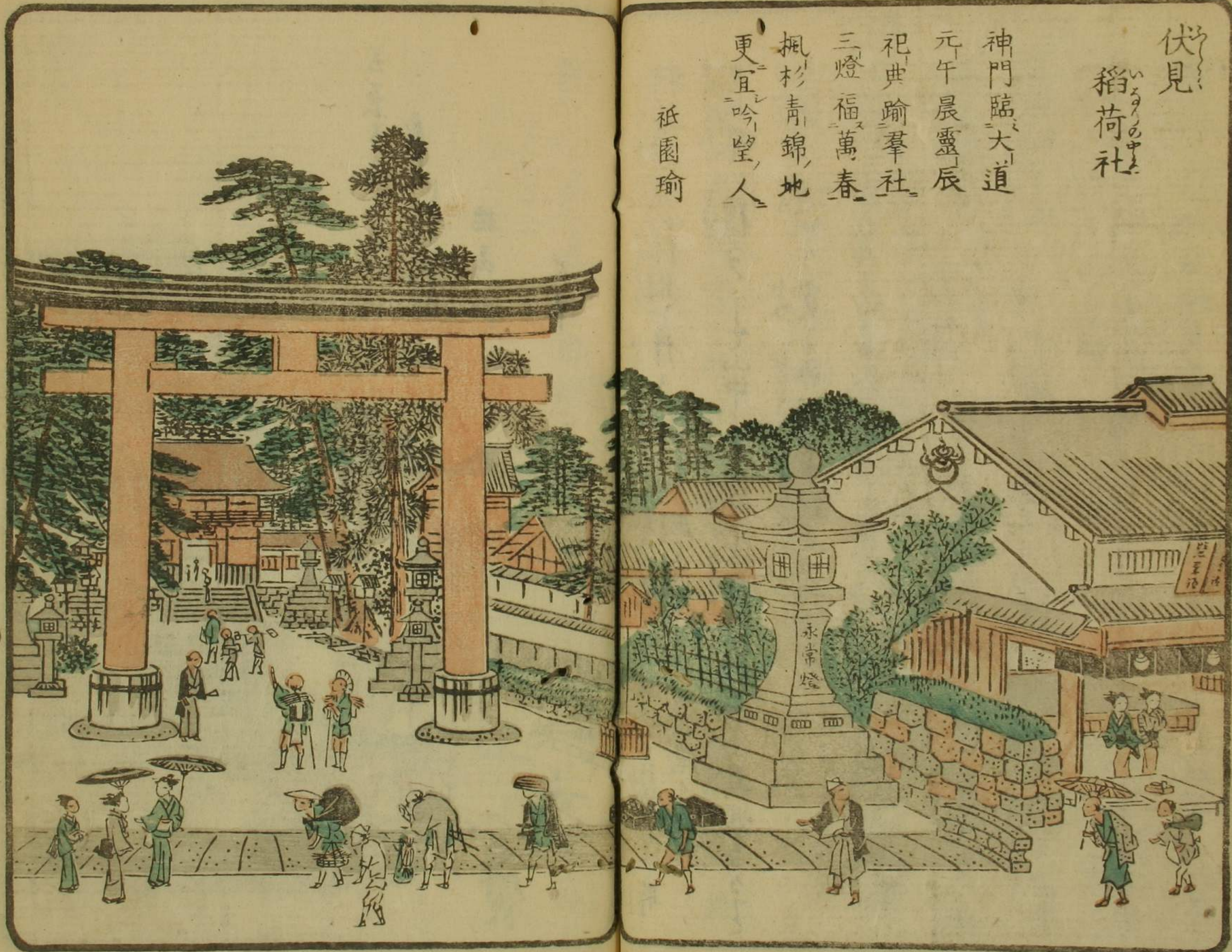
神官館社僧の坊々

伏見

稻荷社

神門臨大道
元午晨靈辰
祀典踰羣社
三燈福萬春
楓杉青錦地
更宜吟望人

祇園瑜



美草

よくぬき

綿糸山

尺草



軒とつねなる程に都鄙の諸人間別なり。就中毎年二月初午の

日、和銅年間例より神事となり其前日より遠近の貴

賤群衆の皇都第一の堀ひらり例多し四月上の卯の日にて

三月二の午の日神輿五基九條の御結所より渡御なり

卯の日まで御結所を置きてこれとあり

其間御結所と移して遠くは群衆の

前後に供奉し神具雲のてりて列を魏々溜々として壯麗

なる祭式なり

東福寺

伏見街道の東傍にあり恵日山と
号し禪宗濟家立山の第四なり

本尊釋迦牟尼佛

座像の大佛なり

朕士觀音 虚空藏 各座 檀の隅の四天王東西の殿 檀の帝釋天

及び達磨大師并百丈禪師臨濟禪師開山國師等の像の 佛殿の 後面

親音十八天衆と 法堂 佛殿の 選佛場 仏殿の 方丈 法堂の 傳衣閣

開山廟 其餘東司鎮守社十三層の石塔鐘樓庫裏

浴室山門巍々々々々々如藍の美觀言語絶せり通天橋の法

堂より祖堂へ通路の流溪架せる橋下の溪と洗玉礫と号し

左右の崖の悉く楓林々々々々秋の季は妙れが恰も紅錦と浪々々々

か如く所謂洛陽觀楓第一の勝地なりとる程は文人墨客詩と

賦一歌と詠じて懐と述べて都下の男女打群々酒宴と催し紅顔と

夕陽争ふ十月十六日の開山忌 聖一國師 俗世此日と辨當

収と稱し觀楓と号し遊泰とるれいと懸し又二月十四日

十五日の佛殿に涅槃像の大幅 北殿司 懸し詣人小縱觀

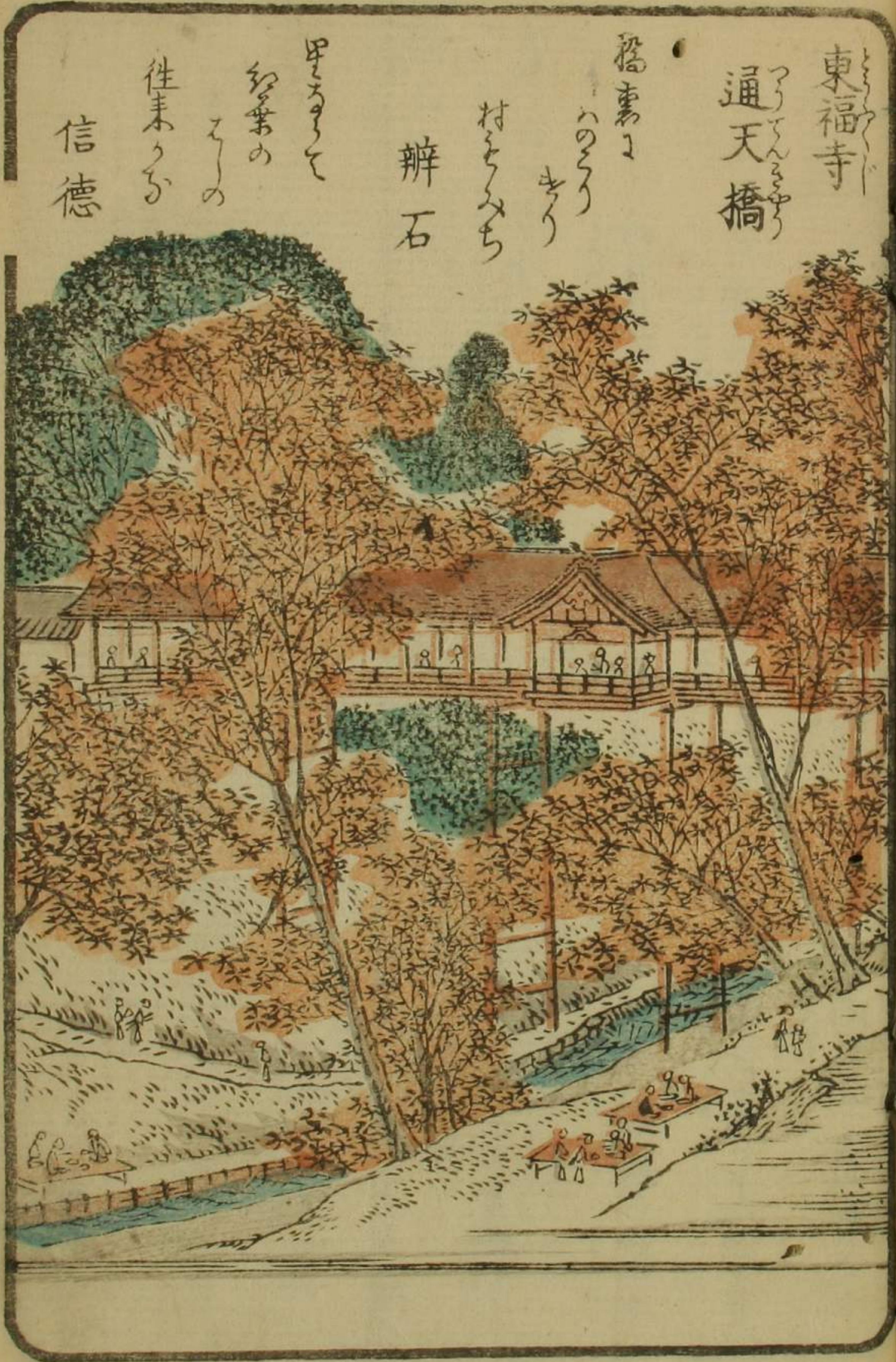
せむ遊客これと号し始と号し群集れ

涅槃會や東福寺の帆と号して 圓ノ

開山忌と名りの苗主の稻荷山 浪化

三之橋 東福寺の境外は見街道有 二之橋 同掛及三の境外凡八町の間に二の橋

流れ洗玉礫より出ぬ 流る常樂庵の奥より出



東福寺

通天橋

橋あり

ハのり

きり

村あり

辨石

甲のり

紅葉の

ころの

往来あり

信徳



一之橋

東福寺小門前伏見街道の北一町余三つり水源新熊野社の良の谷より
少右三橋より伝の末は是より西の方にて加茂川ニ入

ひり時雨一二れりり水笠

荷今

子規一二れり橋の萩あけりも

其角

龍尾社

一の橋の東傍にあり拜殿馬馬舎末社神典藏ホりり近年再営りり本社及び
拜殿りりり美叙りり境内ニ三乗の楓あり是所謂真の楓樹なり

大佛殿方廣寺

同伏見橋の西より寛政十年七月雷火に焼亡り今其礎石のみ
存り百分一のる徳再建りり又近年大像の半身成就り假堂ニあり

當寺ハ往昔天正十四年豊臣秀吉公の御建立りり本尊ハ廬舎

那佛の座像長九間四尺五寸巾十三間二尺四寸後光の高十八間五尺

座の廻二十五間佛殿ハ西向りりく東西廿七間五尺五寸南北四十五間貳尺五寸

棟高二十五間柱數九十二本許差徑九尺五尺許廻廊南北百尺間 高三間半

二王門十五間二尺寺高十間二尺金剛力士の長一丈四尺狛犬高七尺南門南門六尺

棟高五間撞鐘堂四間四方柱數十二本鐘高一丈四尺指し 堂前ニ建り

石燈爐りり列國諸候の名と刻む佛殿の敷石又正面石垣の大石りり

國々出陣の名或ハ諸候の紋所ホりり廻廊の外りり櫓物系と交えて

極りり慶長元年閏七月十二日地震りりり佛像と崩れ

秀吉公其後信別善光寺の弥陀佛と迎へ安置りり同二年八月善光寺

ノ帰座同三年又大像と造同七年號失此及ハ銅像ノ摸り然りり鑄損り

大佛門前

耳塚

納藏當時築小止
昆盧殿畔土饅頭
雲關窅恨雜林月
濤送凱歌馬鳴舟
古薜兩穿聲微底
孤墳草翠色含愁
偏憐京觀非魂宅
聳絕鄉音不可求

餘易

耳塚

蚊のうぐ

声も表さる

丸士

耳塚

まろく声

つれね公

柳亭



大像より出火して佛殿より一回祿以同十五年秀頼公より再管
りる寛文二年本尊銅像と改めり木像より北山浄住より
彫刻以大同秀吉公の石塔婆の佛殿の南より豊國社荒廢の後
是と管しより塔前の石燈燼より慶長十年九月より

蓮華王院三十三間堂

大佛殿の人皇七十五代崇徳院御宇天治元年鳥羽
上皇の本願よりて建立あり千手観音千体と安坐し得長壽院
と号し其後又後白河院長寛二年御願よりて建立あり新
千手千体と安坐し此時改めり蓮華王院と号し本尊千手

観音の座像より長八尺康慶の作り二十八部衆あり檀上より安

置の千手千體の堂内の左右に座の運慶法慶のあり堂を

東向 南北卒間二尺四寸六分東五八間三尺七寸 棟高六間四尺六寸 近世諸士此堂に於て

耳塚 正画三門の文禄元年朝鮮征伐の時小西行長加藤清正と大将より

数々の敵兵と討取首と日本へ渡さん事益々これ祈願して送り

しと此所を埋り耳塚といふ

名物大佛餅屋 耳塚の西より大佛殿建立の時より此路とあり賣弘むり

唐破風作の額標版に正水の筆より代より位して其名高し

大佛北門前馬町とある趣き大津に至る御所あり是と瀧谷城と
号す 山科御所村あり 昭和の末に移入り此の地より向ふ
朱雀田の末と号す 遺台といふ一基の樹あり

經信忠信石塔

馬町の小御民家のうちあり石の大塔二基あり 俗に云
永仁三年二月二十日施主法西云又一基ハ後あり

一説よりいふ此辺に等光寺あり寺あり其寺の寄附塔ありん云
山城志ニ云元在六条坊門松屋町大安寺寺廢後石塔于此たき
佐藤兄弟の事其證あり

右のありある谷我の道より下これ同一

三嶋神社

右の所あり大岩の社あり 例祭九月十六日安産と守りあり
衆人群衆は堂所の生土耕あり産子ハ二代親と葉あり喰ふあり

祭神三座

大山祇神 木花開耶姫
岩長姫ホのこ水あり

燈籠堂古蹟

正林寺の西の方人家の北に谷あり是と小松谷といふ此所小松内大臣
重盛公の山莊あり則燈籠堂の旧跡あり

源平盛衰記云大臣常居ひくろ四方に四十八間と點一一方に

十二光佛と一体づ立たてまつり其前毎に常燈と燃せしむ

四十八の燈籠あり故に此大臣と異名に燈籠の大臣とぞ申さる云

斯くのハ此小松谷より山莊に於ける事あり

正林寺

馬町の東より小松谷より一津土宗開基ハ
惠堂上人あり

本堂

殿舎づらうして南向あり此地ハ月滿禪定兼實公の旧跡
由緒あり九條殿より御寄附あり本堂あり檀上の

中央に圓光大師の像とあり此余阿弥陀堂開山堂鐘樓經藏方丈庫裏
鎮守樓門ホ巍々あり兼實公の御所あり 時小松殿と号せり

法然上人此殿の御堂とあり
黒谷傳記に見へり

千とせり小松のめと成恒家とて無量壽仏の造りとせり 漁空上人
玉章地藏堂 小松谷の東にあり樹下の左傍あり本寺の地蔵菩薩座像長七尺余
土とてつく作るとせり小野寺とて

傳云此尊像ハ小野小町の作らりと此人彩色するびるさとて以て深男
おもむと悩亂とてと數て親疎と分るべ艶書と稱するて降雨の
如く老後愛執の罪と悲んぐ滅罪のち自ら此像と作ら
其施書と集めて腹内に藏む是故に玉章の地蔵と号するなり
昔不道者いつく腹内に秘書ありて傳へ聞くとこれと採んとも
み此像の後と破るといふ後豊太閤の北政所の右筆小野通女との

尊像と信じ破損と補ひ手自張く彩色ともかえりて我腹
内に長三尺許の石の五輪あり銘と慈眼大姊とあり年月は詳ら
又一説と深草少將玉章と此地藏尊と奉納して小野小町と相違
の縁と祈るといふ何れも是より哉とて

清閑寺 玉章地藏の東藩谷樹下のゆかり延暦二十一年沼繼用基とて
此人のやとていふとて此像は真言宗中興佐伯公行建立し

本尊千手觀世音 立像長三尺余 客殿の庭中ニあり一説と六条院
菅公の依とあり 要石 の所陵の趾ともあり

高倉院御陵 右本堂の北半町許あり山の内ニ二間半四方石階と積上り
帝御愛樹の丹楓御陵の傍にあり

くは霧のまきふ山の紅葉はふらふらとて夫とてなり 御製

小督局墓

同陵の左の方より此局は高倉帝の御寵愛地と異なり一と云ふ
橋町中納言の女より委くハ源平盛衰記に見へり

高倉帝の愛せしむる給ひ一余風にて今も尚此地に丹楓あり

暮秋の頃ハ錦繡と晒けが如く眺望あるは美観あり

潘谷

小松谷の東三町の間の通称あり実ハ潘谷なり古ハ此所に寺院あり
後土御門院皇子増仁僧都と潘谷宮と号け

元慶寺

北花山潘谷街道の北の辺にありも天台宗近世禪宗と改む
花山法皇御剃髮の旧址あり

本尊薬師佛

座像七寸僧正 阿弥陀佛 慈覺大師の作
遍照の作あり 脇士 毘沙門天 運慶の作

僧正遍照像

自作 坐像 坐像 坐像 坐像 坐像 坐像 坐像 坐像 坐像 坐像
仁明帝の近臣なり剃髮して當寺に住し終つ僧正とす

花山法皇像

自作 坐像 坐像 坐像 坐像 坐像 坐像 坐像 坐像 坐像 坐像
當寺ハ陽成帝の御願にて貞觀十一年に

尊像と信じて破損と補ひ手自張り彩色も如く我腹

内に長三尺許の石の五輪あり銘云慈眼大姊とあり年月は詳らば

又一説ハ深草少将玉章と此地藏尊に奉納して小野小町と相違

の縁と祈るといへ何れも是より哉と云ふ

清閑寺

玉章地藏の東潘谷街道の西あり延暦二十一年沼繼岡基とあり
此人の事いへり

本尊千手觀世音

立像長三尺余 客殿の庭中にあり一説ハ六条院
菅公の依あり

高倉院御陵

右本堂の北半町許にあり山の内に二間半四方石階と續上り
帝御愛樹の丹楓御陵の傍にあり

うは霧のましましの紅葉をふまうさるるほど夫と云ふなり 御製

小督乃墓

同陵の左の方ニ此乃高倉帝の御寵愛地ニ異なり
橋中納言の女あり妻の源平盛衰記ニ見たり

高倉帝の愛を余風として今も尚此地に丹楓あり

暮秋の頃錦繡と晒びが如く眺望あり美観あり

瀋谷

小松谷の東三四町の間の通称あり
實に瀋谷あり古(此所)に寺院あり
後土御門院皇子増仁僧都と瀋谷宮と号し

元慶寺

北花山瀋谷街道の北の辺にあり
天台宗近世禪宗と改む
花山法皇御剃髮の旧趾あり

本尊薬師佛

座像七寸僧正
阿弥陀佛 慈覺大師の作
毘沙門天 運慶の作

僧正遍照像

自作 坐像 聖徳太子
花山法正と俗姓の良峯宗貞
仁明帝の近臣と剃髮して當寺に住し終に僧正とす

花山法皇像

御自作共
當寺の陽成帝の御願として貞觀十一年に

女馬あり

宗永

塵外樓

大馬あり

柴の介

火の羽の

賣

淀川兩岸一覽登船下之卷終



編著 浪荅 曉 晴 翁

畫圖 全 案川 羊山

備書 帝都 鎌田 醉翁

曉晴翁著

宇治川兩岸一覽 中本全貳冊

松川羊山画

追刻

文久三癸亥年序書發行

江戸日本橋通江一丁目

山城屋佐之助

京都麩屋町新小坂

儀屋清之助

大坂心齋橋通小倉町

河内屋七郎之助

書

肆

